

びるだん和紙を 愛した作家たち特別展



2017年3月25日(土曜日)から28日(火曜日)まで(26日・日曜日休み)

入場無料 午前9時00分から午後8時00分まで(※土曜日/午前9:00から午後5時00分まで)日曜日休館

会場 大阪府立中之島図書館(重要文化財) 2階多目的スペース
内容 富山県朝日町蛭谷は歴史あるびるだん和紙とバタバタ茶の里。
びるだん和紙を愛した作家の作品。
個人蔵秘蔵作品を特別展示いたします。

幻のお茶バタバタ茶の体験会25日午前11時から12時会場で開催いたします。

主催 「いってみたい、住みたい朝日町」ブランドづくりプロジェクト実行委員会

特別協力 株式会社アスウェル(大阪府立中之島図書館指定管理者)

HP <http://birudan.com/>



〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島1丁目2-10

HP <https://www.nakanoshima-library.jp/>

びるだん和紙

びるだんの冬の日、雪道を歩く。

カタン、タボンと紙漉きの音。

女たちは熱心に競い紙を漉いたという。

古くは加越能文庫に

1695年頃「中折紙少々漉申候 蛭谷村」記される。

昭和の初め120軒をこえる紙漉き場があり、
戦後、画人が滞在し創作した記憶が人々に残る。

女たちの1枚でも多くの紙を漉きたいとの思いが、
うすく強い紙を生み、障子などに重宝された。

大きな火事が村を襲い、多くの道具が焼失された。

時代は近代紙が常用を奪ったが、画仙紙として愛された。

自然の楮やトロロアオイから生まれるびるだん和紙は、
はじめ茶色く、時を経てまるで白銀の風景のように白くなる。

今もその面影を

多くの画人に愛されたびるだん和紙に残す。

びるだんの思いは、びるだん和紙で伝えられる。

とやま
朝日町

バタバタ茶

早朝からのひと仕事を終え、
自慢の山菜の煮しめや漬物を手に
人々が集まる。

茶葉を木綿袋に入れ釜で沸かす。
五郎八茶碗に茶杓でバタバタ茶をそそぐ。
塩を少し入れ、すす竹を二本あわせた茶筌で、
バタバタとたてる。

講が開かれると御領解などからはじまり、献茶、飲茶となる。
いまはむかしの習わし。
蓮如上人さまの越中布教のおりに飲まれたと語り継がれる。

バタバタ茶の日、びるだんの人々は笑い、語り合い、励ましあった。

びるだんに今も残る、あたたかなこころの時間。

幻のお茶バタバタ茶の体験会
25日午前11時から12時会場で開催いたします。

びるだん物語

自然の力と共に生きる。

幻のバタバタ茶をたて、のむ。
素朴であたたかな時。

自然をびるだん和紙に漉く。
凜としたやさしさにふれる。

びるだんが紡ぐ思い。

ゆったりとした、こころの旅。

富山県朝日町蛭谷

<http://birudan.com/>

もっこもっこ
朝日町 
<http://asahimma.com/>



とやま
朝日町 